



名づけて「ビードロを吹く少女」。 歌麿の時代から、いまも 長崎の工芸品です。

「硝子」という字を「ビードロ」と読む。

いまも、そんな長崎の人がいると聞きました。

「ビードロ」はポルトガル語。16世紀の南蛮貿易で長崎に届いて以来、
ガラス工芸の技法は長崎にずっと受けつがれてきました。

なかでもビードロ細工のおもちゃ「ポッペン」は、その珍しさと面白さから、
流行に敏感な若者や女性に大人気。たちまち江戸にも広まったとか。

さて、葛重さん、歌麿さん。いまならどんな絵にしましょうかね。

硝子と書いて「ビードロ」

長崎で、会いましょう。

